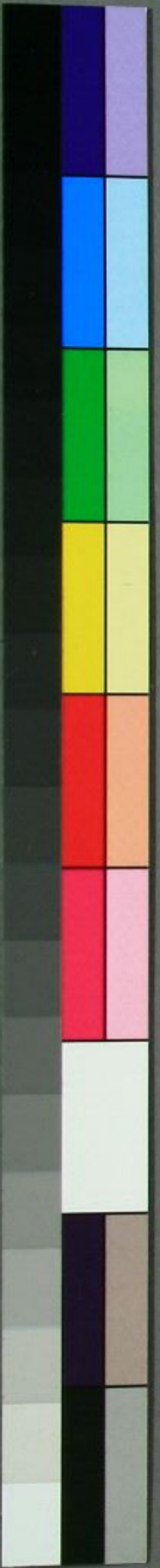


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

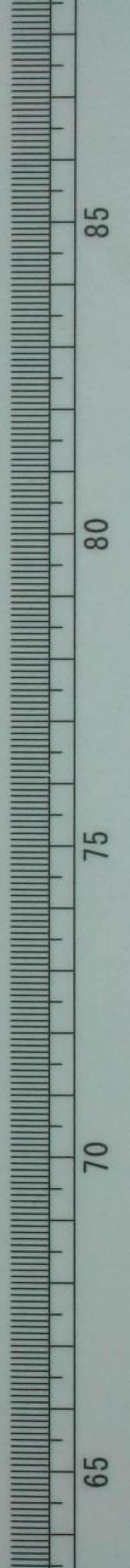


繪本故事談

五

~~E~~
~~18~~
~~5~~

逍遙文庫
文庫 6
25
5





繪本故事談卷之五目錄

日本武尊

源賴政

朝夷名三郎

平維茂

佐々木盛綱

佐藤兄弟

源為朝

兒嶋高德

源賴光

源義家

佐藤太秀卿

渡邊綱

平忠盛

那須與一

源義經

曾我兄弟

赤坂実盛
熊谷直實
巴女
平清盛
捕正成
今井兼平
浄妙一來
上総忠光
信玄謙信

平直貞
新田忠常
源朝長
源仲經
小山田高家
京清
高綱宗季
宗親衛
藤塚伊賀守

繪本故事談卷之五

日本武尊

孝の系初帝の法子あり帝の皇居同日同胞ありて雙生
志のふ俗は小帝これと異と一確子ありて二の皇子と大
確小確と號ふ小確は日中武尊なり幼少に雄略を
氣わり壯子及び容貌魁偉なりて身は長一丈力よく
昂と扛武勇秀て智謀あり十六年の時筑紫紫然
統衣の大將川上景師と欺て刺殺し一族と比し
又東征伐の詔を兼て起るの日はと担て伊勢太
神宮子諸叢雲の宮殿と結ばて遂に駿河へ去り
むりまよとの誠徒隔て隠ひ計と以て北条子火と





放ちてと焼
頼光の尊
佩下の空波
ぬさしては侍の
草と雜攘ひ
みふらにわいて
先りては
火はうはと成
徒と焼先
空波と草雜
とあつたられ

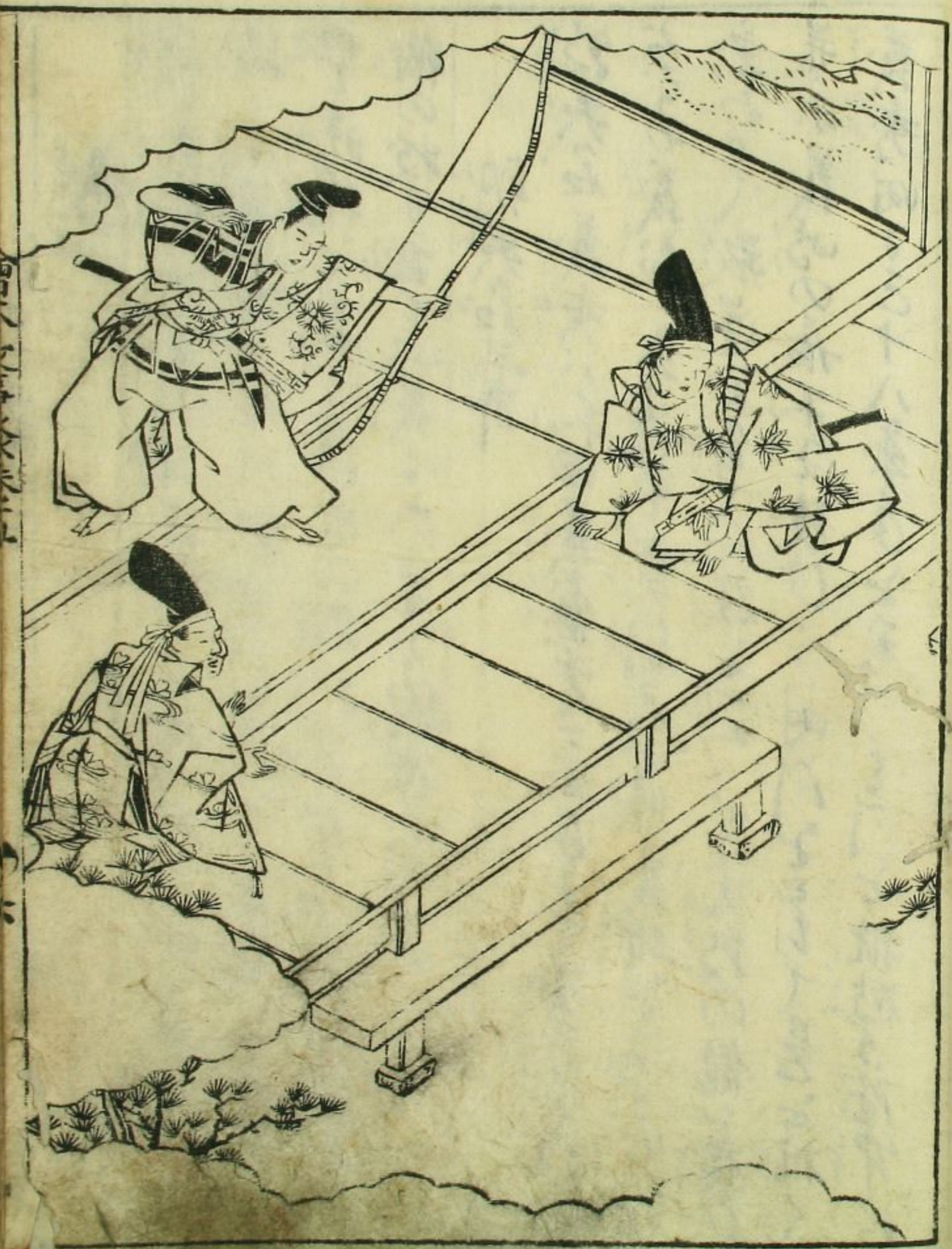
源頼光

頼光ハ浦仲の長子にて智勇とて
清守に接伴と任一徳守府將軍と
頼光の宅子赴き一鹿一人の
足と伺ていそ彼何者かと頼光
頼光のいそけ福の剛乃者と
なりと頼光さるのありて合
脱くくあさりて悪因丸これ
深く恨めわかくて盃砂だけ
頼光遂に一病やる悪因丸い
切て頼光の寝所の天井れと
頼光のいそけ福の剛乃者と
なりと頼光さるのありて合
脱くくあさりて悪因丸これ
深く恨めわかくて盃砂だけ
頼光遂に一病やる悪因丸い
切て頼光の寝所の天井れと

如らんと討スウリわね光ライクウをやくカウリ懐カウリて後カウリ夕カウリのカウリ怨カウリとカウリ石カウリてカウリ屋カウリのカウリとカウリ驚カウリ
用カウリ公カウリすカウリ一カウリとカウリ夜カウリ明カウリハカウリ鞍カウリ馬カウリ止カウリにカウリ急カウリ湯カウリすカウリ入カウリるカウリ日カウリとカウリ命カウリをカウリ失カウリふ



人三まぬ大内はつさきいふくられてつと丸とらんそつれ
 此の漸より敷威なりて正四位下に叙せらる程是より
 の海より返たて給ふ本の中にとおとひのひて世と海より
 此より遊子三位たれりそは保元平治の乱より忠義
 あり治承三年に平氏と出ると謀る事ありて平治
 院より自殺の時年七十五一洗子七十一七とあり



義家

源の義家、其義の嫡子ありて早年の時男山に於て元
彼一八歳を即ち馬に壯年になり及ひて勇力人子孫は
勢疾楯と貫く清原の武制の如きはよめて程三銀
樹の枝に懸て一矢に六至と射ぬれば

朝夷名三郎

朝夷名義秀、和田義盛才三の子にて勇力其母の
士なる義盛、一年將軍實朝又小條義時と依るの意
完わりて叛逆と企て一族をつらして、實朝の館と謀ひ
并小義時の后を攻む義時門をとりて是を拒く
義秀、四十八歳とす、門を批破り、中



涌入、ころく、鋒よ
當る者あり、遂に
其館と焚、北条泰
時、れと防、義
秀、戦利あり、作て
房州、越、ころく、
その對、品を、歴、
高、兼、國、は、信、と
い、つ、と、る、簾、の、外
夷、名、が、祠、あり、と
り、ぬ

依藤大秀師

友大秀師の魚名公の玄孫河内守村雄入嫡嗣なり
 朱智院の法宇に平親王将門と下総国幸陽におおて
 合戦し朝敵と止し一そ懇切に依り鎮守府の将軍と
 なるの初秀師の品勢田の橋とるるに橋入時
 神入ありて曰く敵し争お老わり如何とも為方な一壯
 士若止さい幸甚くんと秀師うけおひてこれを宿願ふ
 良客乃側し物有て来まりそ怪しといふと
 なる一良大箭を双れて直中と射り遂に倒て死す
 けてされとていとおほいなる

橋をわくつたあ



平維茂

維茂は先桓武朝より出てお將軍貞盛の
なわ貞盛のてり子と一字と成五といふ
戰熟なり
將軍にいらぬ故に俗に呼ばれ又將軍と
貞盛の諸任と教へて威を振ふは維茂
元原の紅糸と遊遊一妖鬼を食て是と斬るといふ

渡鳥網

源の流は渡戸黨の始祖なり祖父源正
の任に赴て
よわ武初の二回より若三回周知
二回源正の
貞武の剛毅
世に天王と稱はるる
羅生門を過り鬼の一臂を斬る

獲らるる將軍功牧
たすに違わらるる



作本盛徳

作本三良盛徳は宇多天皇の俊胤に命ぜられたるに
 俊胤は父秀義源の爲義と父子の約わりを以て
 早治の合戦に義経に送るに勤む義経は
 是て秀義平家子属すべしと強ひ奥の秀徳と
 其れ相換ふに及ばず混谷に到りて國を抑留せし
 此に北年と送り子四人あり嫡男と定経といひ二男と
 爲る三男と盛徳といふ又三女あり女と要
 一男と秀義の義法といひ家后頼朝の死を以て
 因て秀義の子に爲る盛徳と名し頼朝と請ふを
 後平氏と改め及て作本三良我功と正して其の目と爲るに



と救夜をあり中内
 友平の海におおて
 流すれ日盛徳浦の
 不瑞くは流されたり
 と用て海とと後て
 忠盛

忠盛ハ桓武帝の苗裔
 与正盛の子にて
 一人なり白河院の
 人祇園の社を
 禁裏と教言衛仁帝の
 人祇園の社を

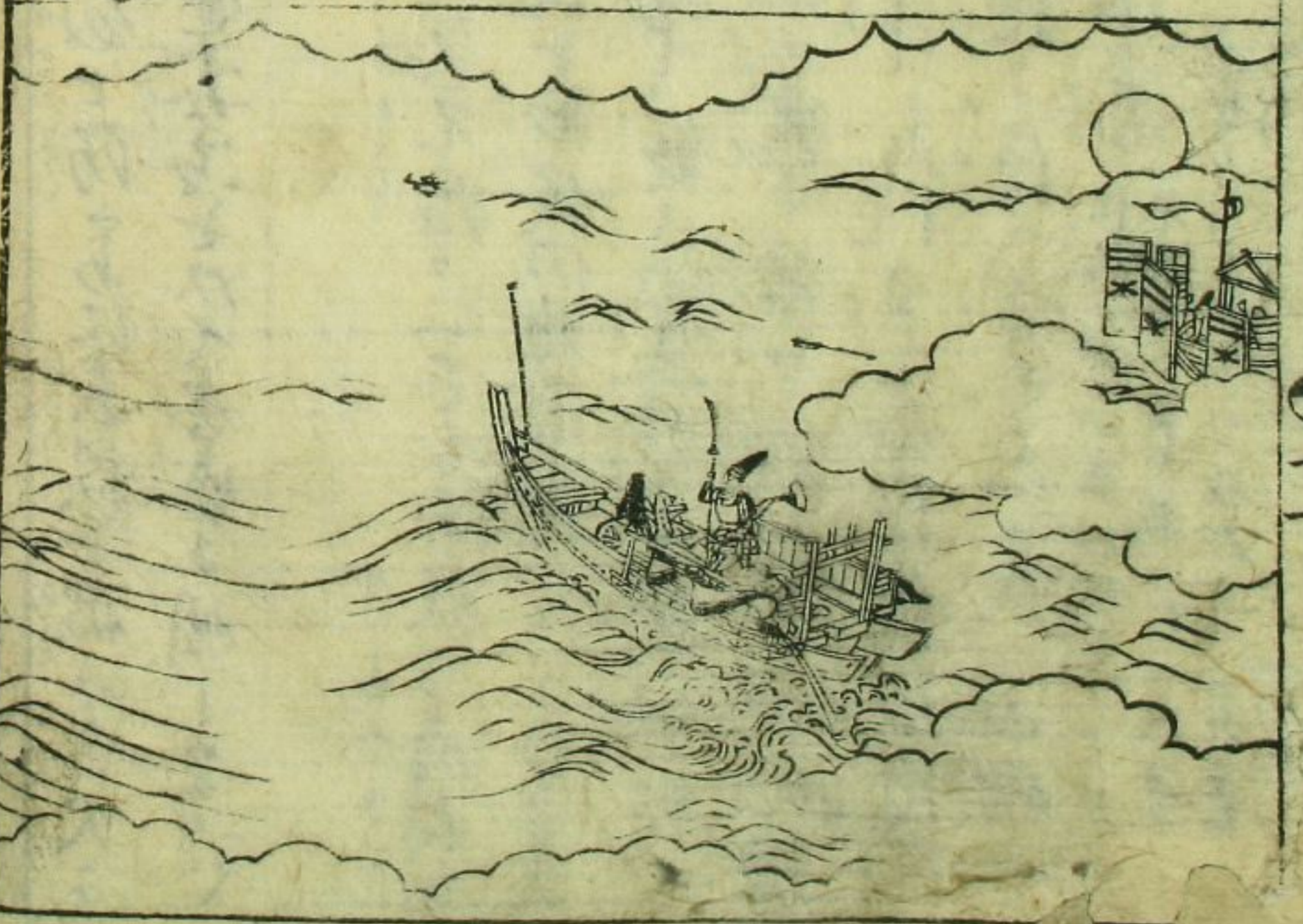
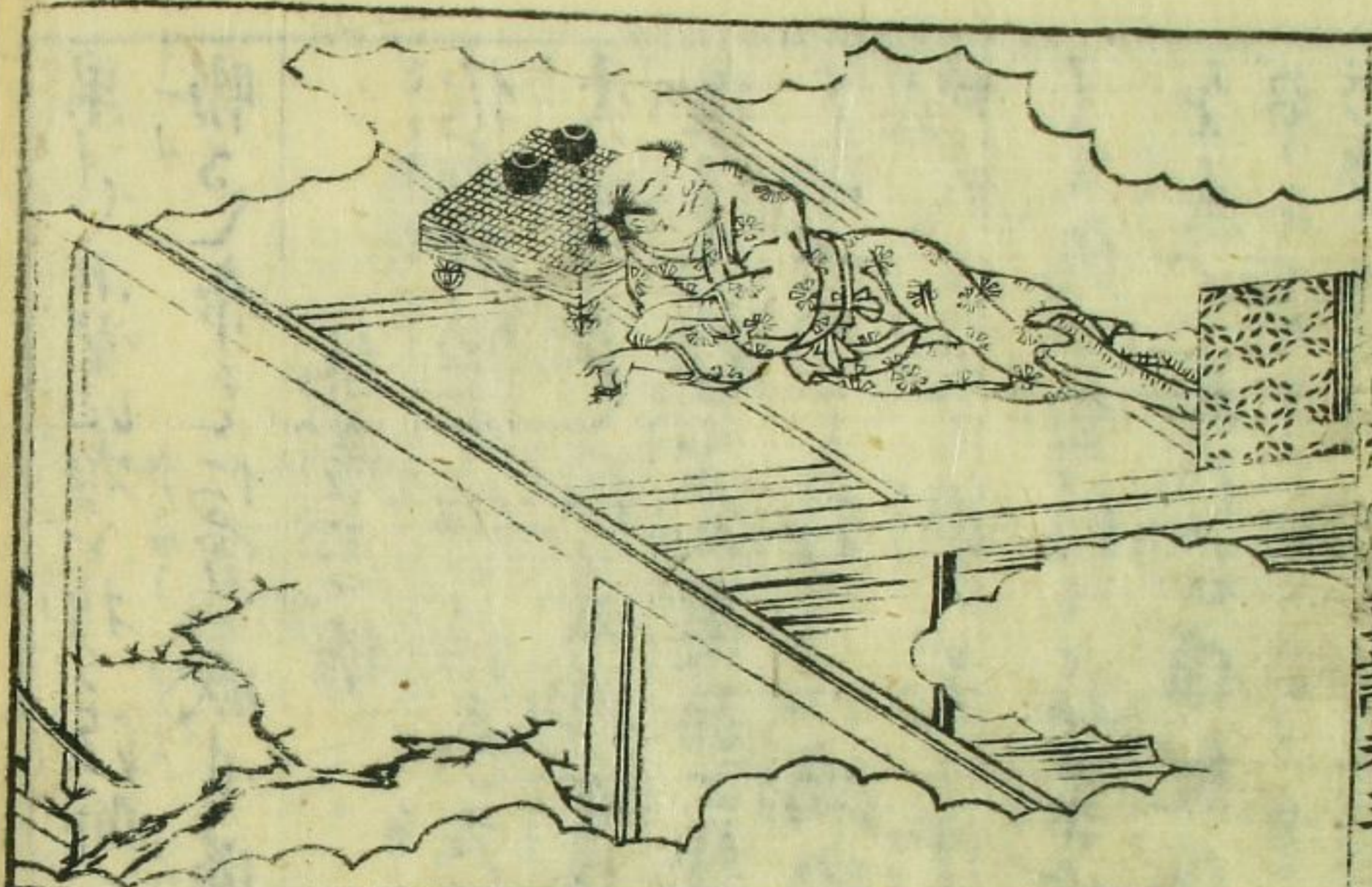
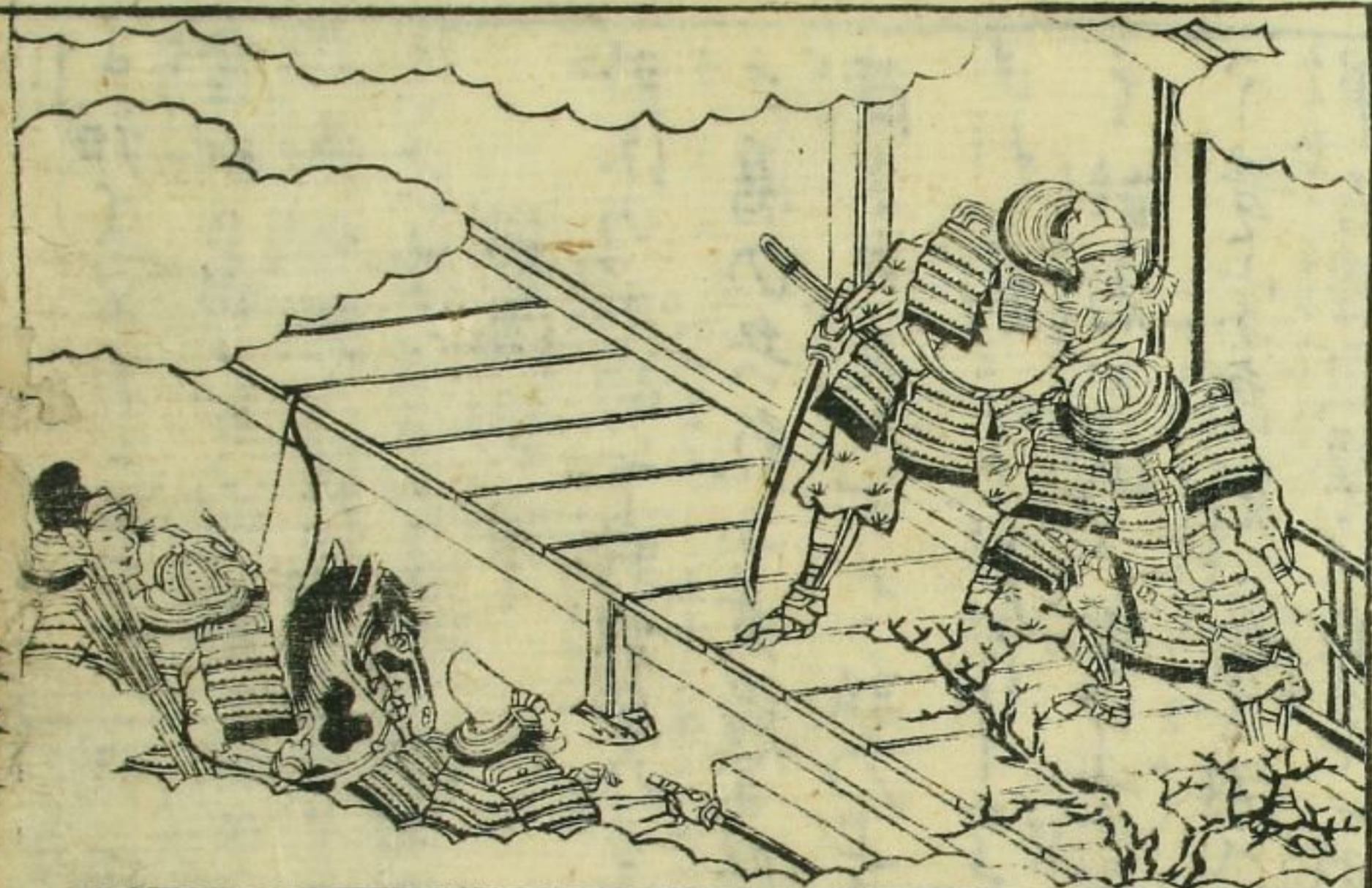


祇園のやういふ事
 うたに此の事幸し
 五月下旬霖雨
 つとて秋殊に
 此の事れつ老あり
 浪針乃おのれり
 手に兵物と携て
 懐しつとるあり
 成空母のらく過て
 予れと殺へり
 昂之性て捕へり

果ては堂に燈と持、法師と防らるに妻殺と被り、火子
 勝る帝も仁勇と感れ、遂に忠盛子婿とす。

継信忠信

仇敵継信忠信ハ信夫の在司元治二子介ハ法寺府將軍
 秀衡の臣之源義隆臣民と征伐の時秀衡二人と以て義
 経子属以兄弟勇弱と發て、取の政教子武切わりの
 すわのいふ、八嶋の一戦、源中雄とわ、小造
 信人子絶て進て矢中て死に、忠信敵と討殺
 して仇を報、後、義隆子後入吉野山入、山僧を
 を起て敵に忠信紀信忠
 おうれお紀信とわ、自ら、祀なりとて、改め、つとれ、ま、



事記卷五

十一

ま知て自ら義絶と號傳徒と拒て舟乘師と曰く婦人
愛家り家子ぶる毒しおしあかると多し敵と引く大伝と
た伝今氣く殺傷これ多し遂に自害以世俗子其盤忠信
とよみあめとさなりた伝松平の基盤と以て敵と防かり

那須與市

那次の宗高下野州の人たり射と善なりと以て
元暦の兵乱に義絶は後八嶋の合戦乃日富家
陣より美女といへ私乃上より出り羽を穿て源氏の兵
おれと射るに依清一やわらうとおれに亂れ軍と
そ能者と識り愈り宗高可んと氣絶命て是と射
る宗高則に船と射て是と海中に落し源平乃
軍兵皆感嘆に譽と一時に抱し芳と千歳を流たり



為朝

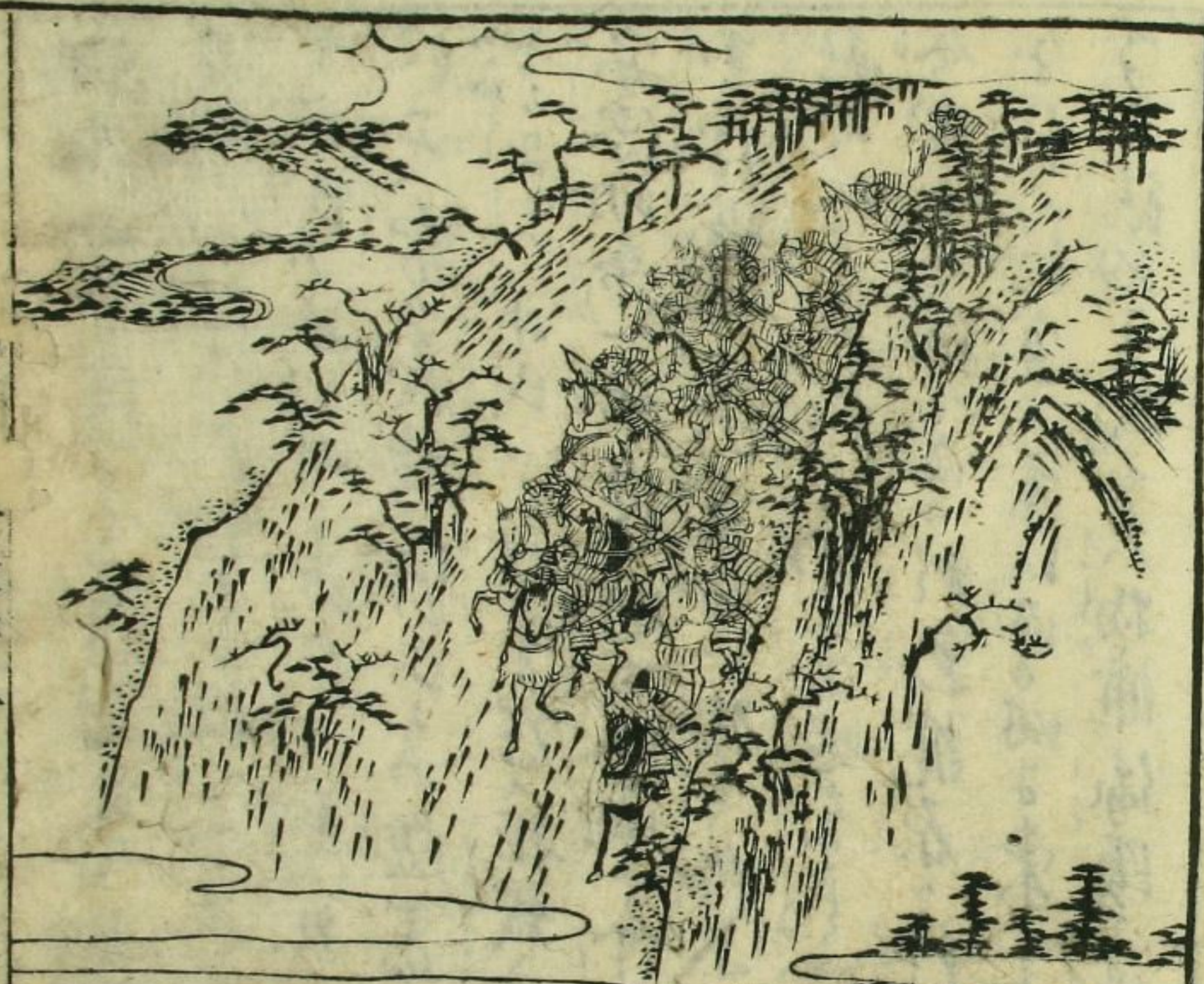
源の為朝ハ義朝の才為義の八男之長七尺射の目
 猿乃臂月齋力人すまふれてよく勁ちとひく十三歳まで法
 西にまゝと是と徳西の八良と小我ハ勝攻れと取つ十五
 歳にまゝと遂に九羽と押候と人是と折る因て取れ
 て洛に悔る年十八歳明年保元の乱に父と同一く
 崇徳上皇のまを護る敵兵と射殺候と多し流碎
 易に候とひくか一既あり上皇南狩奇ひ為朝伊豆
 の大嶋に瀆せり人あひ小邊表皆畏伏せ候り
 わらと十年藤原嘉應年中官兵来て是と攻為朝
 一矢に蒙衝と射破て遂に自殺候年三十三

世俗は為朝君の為りけり物とこののちとわらてを力とこり
 らしゆと君あてひくとわらひつぬとやくしてつとひつて
 君形をえりものいあれなり

源義経

源の義経ハ小字ハ牛若と号し世武の将能なり平治
 乃乱に父義朝平の清盛を殺て取死に一族おほく
 殊に依に義経いまも猿猴と脱る母為藤原の首
 清盛にたて毒を以て故と以て免るるに以て長
 鞍馬山東光坊に投して學と受る元羅漢とす
 敵てすに常に復讐の志とひく異人子傍に谷
 小わいて取しに兵法較に彼の術と習ひみとく
 龜とけくを輕捷とけり

世俗は、ま天狗とのいふ、
 俗正坊と名付てくものいふ



言巻五

十四

又年五五条の橋よてふ人切
 のこととせしむるの年おのり
 せりとしてふりきて橋弁未こいふ
 を略義経のちねさるるらあし
 く由さりわさりの國をこへぬ
 わりて果すまゝの海わら
 十六歳よて潜よら
 海と出足とわら路と
 越て奥羽にむり秀
 衡の館よ赴て其志と
 告りに秀衡よく是に
 かあふ治承四年
 見れぬ是別

勃興わたりて成りて奥州と立てぬの方子公頼朝子俊成
 美濃川に獨り頼朝大子悦て令し將軍たりて大兵と率い
 て平氏と攻む時平家十萬の兵とあはれ一の石れ密害
 にそあり義経後山より險をかりてそ兵ひりたりと後子
 安徳幼帝と依りて逃て西子奔り又頼朝八將と保つ
 義経追討使の宣ると仰て頼朝八將と就き平軍と夫
 長あんとて以懼て海と逃去と後志度壇の浦取と乃
 今我子并誘て海に頼朝推原と終と信して強念と入るる
 を併りに空く京に海子東より討子の大軍来ると
 して法海子赴く大物浦縁原子迅風起て舟飄蕩す

幸に免て吉野山に匿貌と變して小陸乃と控て舟奥に
 秀徳を敵と赴く文治年中我子恭徳を子殺せり自二十七
 児傳る徳

児傳る徳
 思得傳る徳
 我子傳る徳と友軍小西と義と起ると欲に流して
 笠置の城隔りて武丈帝と護りて隠初と遷しとあり高
 徳共と路の要子伏して遮て翠華と奪んと欲と遷幸
 地の方よりありて事ありていそりに行在所に詣るの機
 橋と斬りて向と率していく天莫空句踐時非無泥露
 登固の士と志と知に乃帝と献と主上敵落りわり
 忠義の臣わりと知ると時殊子伏して及る氏



謀及以四よおれりて裂く
 海内鼎の形沸高徳
 始終忠義の軍に戦功
 を獨に收め心と諭は
 然らば處この軍に戦功と
 獨に收め名を三宅と改
 治し入て絶えざる民を
 皆んと欲しと我を
 て修加し出奔し其
 志と遂にといふも世を
 て歎美されといふは

曾我兄弟

常家祐成同時致八河津祐泰二子なり祐泰没
 して後常家祐信は月夜しり故に曾我と以て我は祐
 成九歳時致七歳より父の仇と報ずると以て藤原
 忠成に建久といふのち母を殺すに富士野に二子
 潜み菅原中よ入て祐経と柳床を刺殺し宿衛の士
 競ひ争ひて出多く二子の為に死傷と戦鬪や之して
 ぼよ仁田忠常祐成と斬り小舎人重久の時致
 と虜らめ致頼朝は獨りて勢多嶽と叱て死す能く
 人皆これと感賞ん

世俗二子とをよくし多し一和田酒りのらさなり川十郎
 らく馬まきつりしホカりてまよ書ん

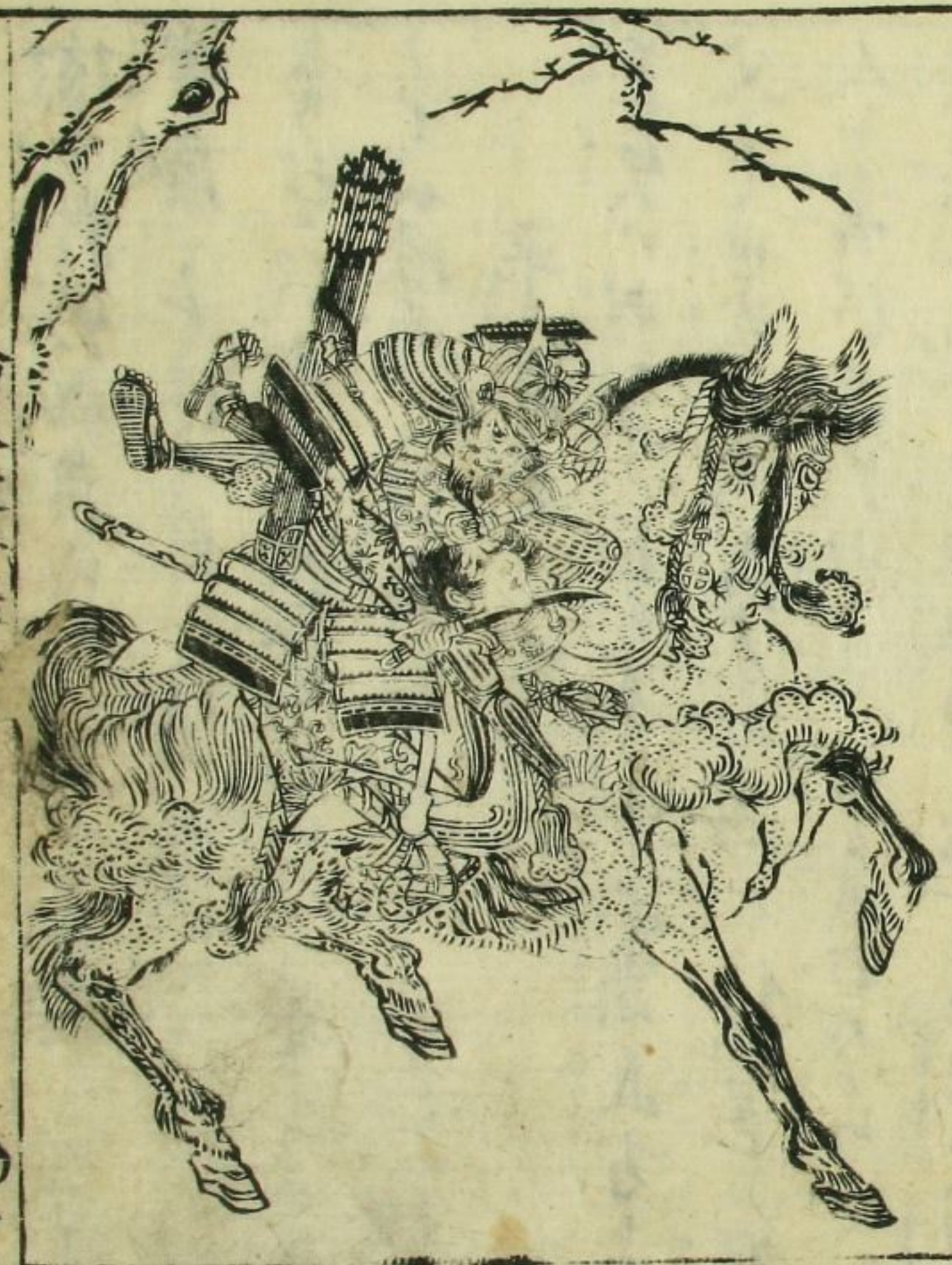


冬ノ古里

十一

寶成四

長井の宝成盛ハ裁^{ちり}お乃^の神^の友^{とも}氏^{うぢ}なり



保元子義朝^{やまもと ぎとも}子^こ義朝^{ぎとも}白川^{しらかわ}の^の軍^{ぐん}と
 義朝^{ぎとも}平治^{へいじ}の^の軍^{ぐん}と
 都^{みやこ}方^{かた}門^{かど}と^と言^いふ
 源^{げん}家^け團^{だん}兼^{かね}光^{みつ}の
 時^{とき}遊^{あそ}び^{あそ}び^{あそ}び^{あそ}

傳り於於勃真の能人多く、家と習て原氏に
 實盛よとにそ縁と合て又其心とありしと能て子家
 ようびに、北國の執ひ子自於夫と尋まらぬ後絶と紅
 して、原原に討死に成七十三

平直真

直真の姓平桓武帝の老裔直方、後二弟直実、
 父よて世武加久彦、其居位の邑、猛熊有て多く
 人と害に直真、力と勇氣わり、らと引て熊と射る
 熊、弟と負を、ら直真、飛りつ直真、刀と抜てつおに
 是と斬殺し、ぬ一族及い村の民、大に驚死、且喜よ
 うよ於、地と呼て熊谷といひ、又能谷と以て、於院に



平直實
 熊谷直實、直真
 子、平治の擾亂、
 源義宗に属し、都
 府とせらる十六路の
 一人たり、及れぬ、
 属に常而、佐川の
 役、格加、一谷の執、
 平山、季、重と、是、
 と、以て、軍功、せ、
 且、篤盛を、斬、
 且、篤盛を、斬、

獲て世人武名と云うは後述懐の事あり出たがて運生と名
 洛東の尾谷乃ちよ入源空上人と隙と事ハ兼元二美
 九月十四日死に死するの日源空と云ふ

新田忠常

仁田忠常ハ豆別の人ナリ新田身起の始と云ふは
 橋山ノ赴く又洛東ノ海河ノ戦也と云ふ事
 ナリ加々野家の被成ハ戦勝比企の純貞と執職と
 常岡ノ忠乃新田家の旨と兼々富士の巖穴ノ入
 從者皆死一忠乃糖命と全一と云ふ事又いふ忠乃
 新田ノ富士の精ニ從て野狐の極々急めりと拘へ
 利教と



巴女

巴女の伝別乃屋から本曾義仲これと納て妻と顔
 色清絶子容忍難免の加之と氣勇ししてよくら戦と
 勇ふ故小義仲はこれと納て妻と顔
 巴必これ子後小義仲これと納て妻と顔
 是子将之と心を我功と獲とと何とも丈夫は假小義
 仲と納て我と心士卒死す若多し終て五給ふ成て
 巴於れととり時武器の人治田八師師重といふ老
 あり強力阜強しわ自突強二十と以てこれと進む
 巴女を軍と衛て直子作まとうへこれと別と
 剛さとしくれめ

これは和田義盛のいふところ義盛のくわて
 勇烈なり傍の松橋と町を打向ふ巴其標とを
 いうと



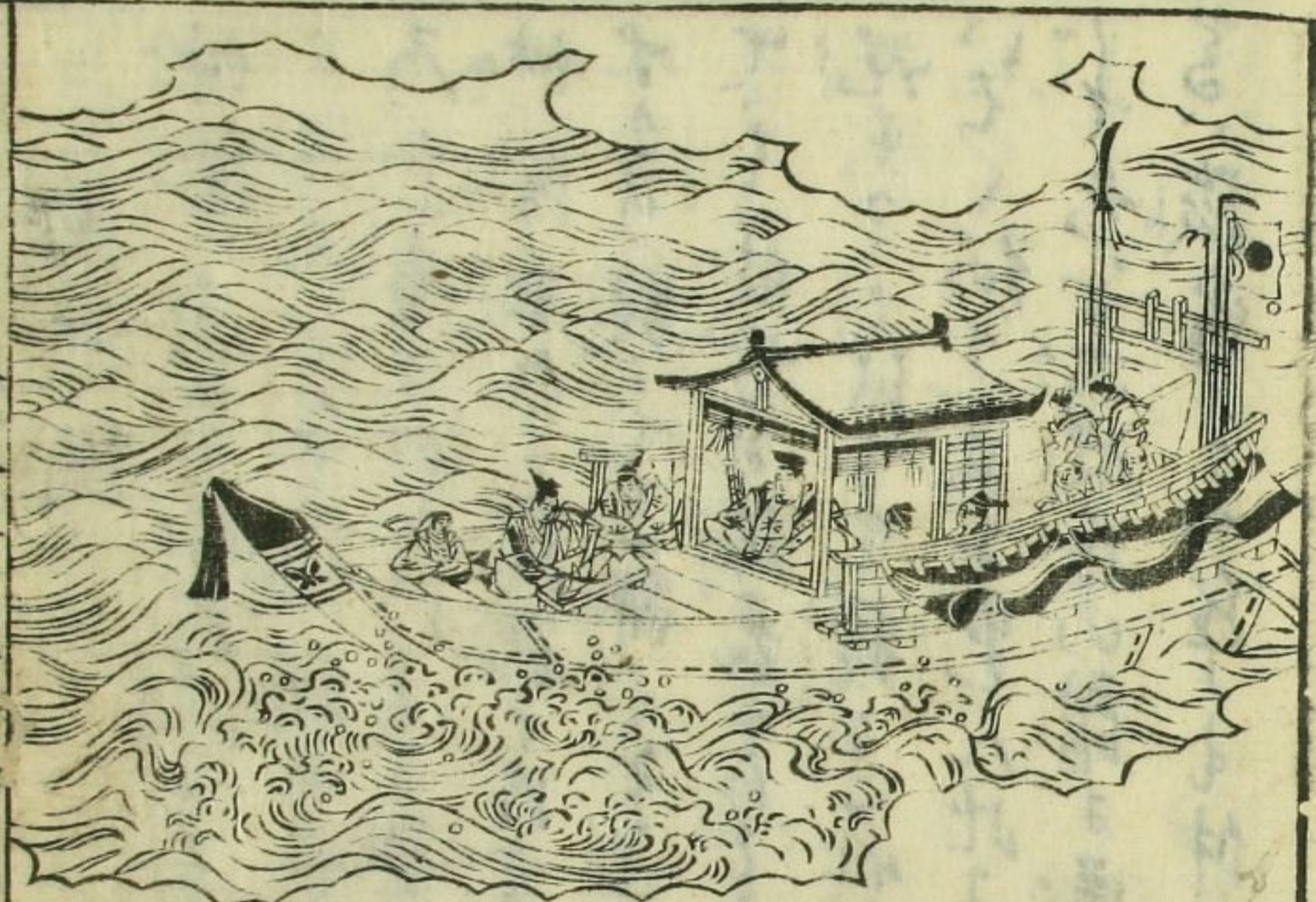


源朝長

源の朝長は義朝の弟なり
 二條院の時平治の役
 わりて義朝軍利あらは
 河の朝長も南へ十六父
 義朝とた子奔て洛小乃ハ
 深の邑よりつとま矢子傷ら
 とて胃と統河は投る俗
 と下と胃の測といふ

源朝長

平の法朝は信朝の利史



右成の子なわらめ奇藝
 ちよ一小時海子航一信勢
 の何れ乃は乃は然然の赴
 大なる難魚ありて確て永
 中に今永中の人にかは
 と祝儀船のいり古子周
 乃武王江とほる白魚
 と舟子入るそれ又此祥瑞
 くと乃疱下人子命て是
 と考て是と食ふは子相國
 子まご改柄と標より

會入文書水巻五

十一

源仲綱

仲綱源光祿親政子あり仕へく侍馬者子補と家
子駿馬と名ふ仲綱出れと名ふ一若と木下と平
乃宗盛これと名まゝ欲し人としてこれと名
仲綱無んといふ欲を以言と託て答ていづくに日
才りみ頻りて蹄をふる侍り政子これと名色子
ても疲勞と体をなると宗盛を病て言と侍疲子
託ていづくに日欲を以言と託て答ていづくに日
いづく何う一馬と名ふ此はおおて仲綱親政一旨と詠
どそ是と六波羅の體を送る宗盛とていづく
る、後送る一若と名仲綱は侍り子の名増へあり

乃藏と火子焼さるの背不焼なりして仲綱と書
して是と既よつる也と仲綱これと名て大子怒り
政も又ふく是と御意遂に平家と討んと欲えり
の文子勅をよめられて親政文と伏奉し近江三井
寺にありし親政の信は後色子の競といふ者あり
小留宗盛これと名て同くいづく海をなれ親政
が形子路いづく答ていづくに敵子此と名ていづく
は留りと宗盛いづく海吾子増んや親政子信んや
いづく何れ敵の人よ信んは吾く不長と名て是
を和いづく只親くは公は侍て風和くと名て是
若し政さん宗盛大子是と名一若日座子侍り日香小



及入宗盛子謂ていさ、
くひ乃良馬と揚へ吾行
て親政と対ん宗盛すか
とち鹿とちり者子命にて
良馬と揚ふまけ石と腰延
といふ競乃これ宗盛て馳
て三井寺子むりこれと仲
經子鉄匠仲經悦をく
鉄と燒平宗盛の字鉄
書る山背山下し是と古
波經、放の宗盛と怒里



競乃と喜るといふ字
挿心成
挿心成、姓ハ橋流是公乃
を流なり字と多し、云流を
い小河品金剛山乃為色ふ
后以後院院の帝は二云、
幸の皇心成りこころは公乃
と負ひ盡く御深わつ、次
少友友房子勅して勝して
右一覺心成勅、息して
行在所子孫、帝業の皆



不と伺ふ心成言あり、勢深
勇略の、ふはれ、いのみ希
大子捉ひの、心成、心成奇
計、奇策とし、く、機宜よ
う、軍の、命、利、わ、れ、と
いふ、か、い、ま、こ、心、成、心、成
よ、か、て、又、家、お、と、心、成、心、成

小山田の家

延元元年、新田義貞、軍
と、脚、ひ、死、の、い、と、狐、一、掃、初
よ、か、て、領、軍、中、子、約、合、い、

至林、制、と、木、板、事、一、これ、と、乃、何、傍、に、建、て、い、ま、く、四
小田、麦、と、刈、採、氏、屋、と、犯、凌、者、あ、つ、て、飛、子、掃、人、と、乞
と、以、軍、の、さ、る、不、耕、と、て、乃、南、市、と、い、は、れ、時、に、義
貞、の、新、侍、小、山、田、の、さ、る、家、と、い、ふ、者、潛、り、田、原、に、行、き、ま
き、麦、と、艾、草、と、鞆、馬、を、執、て、ま、軍、營、に、入、り、長、濱、の
某、と、油、く、い、れ、と、い、て、さ、る、家、に、く、り、か、れ、令、と、侵、の、飛、と
い、ま、せ、ん、と、欲、に、義、貞、に、これ、と、告、ぐ、い、ま、く、さ、る、家、に、ま、り、ま
と、さ、る、つ、の、者、麦、子、代、る、者、あ、ん、や、只、よ、さ、る、意、に、後、不、乃
地、と、い、く、掃、て、敵、の、軍、營、と、す、り、さ、か、く、い、無、合、い、さ、る、聲
頼、經、と、つ、ら、よ、と、か、れ、夜、を、以、て、士、卒、の、饑、を、あ、り、月
法、と、言、ふ、り、是、を、お、お、ろ、く、人、と、遣、い、て、を、凍、死、と、恐、れ、檢

中を果して糧合にあり唯る軍器のそあり義貞
 三つより大に愧ていしく家法を犯し果て餓卒乃
 為り自を死と云ふあり夫士卒と疲苦ること此の如くも
 らしむる將の恥すわらや勇士とハ失ふへる軍法とハ
 恥へるは衣二襲と云ふと田まよ無へるを謝せしめ
 又糧穀十石とする家子獨つてみてこれを賑わす家倍
 こそ恩懐と感して後義貞の命を代りて死すと

今井兼平

今井曰良兼平ハ信那の人中原兼重を子梅に治良
 兼光の才なわ母い未る義仲の乳媪といふ義仲
 幼孤とありそ信那ハ流落を兼重を尋て係す月と



義仲幼して四海と吞の志ありつねと信別は
 起し小澤を略し洛陽に入ると軍容固容兼平は
 知くまといふとなし後義仲勅命は背く執事
 してこれを討しめらる東軍洛に入て義仲死せしか
 然し兼平が死生と志らん為に別は泣く兼平も
 又義仲の存亡を疑いて淡田と奔て洛はゆり義仲
 子粟津子遇ふ且喜いと泣く又散兵とあはれて三
 く戦ふ志むく敗る軍士或は散兵一或は致傷
 せらふ留りて命と全する者義仲兼平只二人
 のと兼平義仲と知りて自教を覺義仲て子
 おおき一乃松林に泣て命と落と石田久をん



首と別ぬ兼平洛陽小澤を
 盡して以て三づり戦ふ

新編

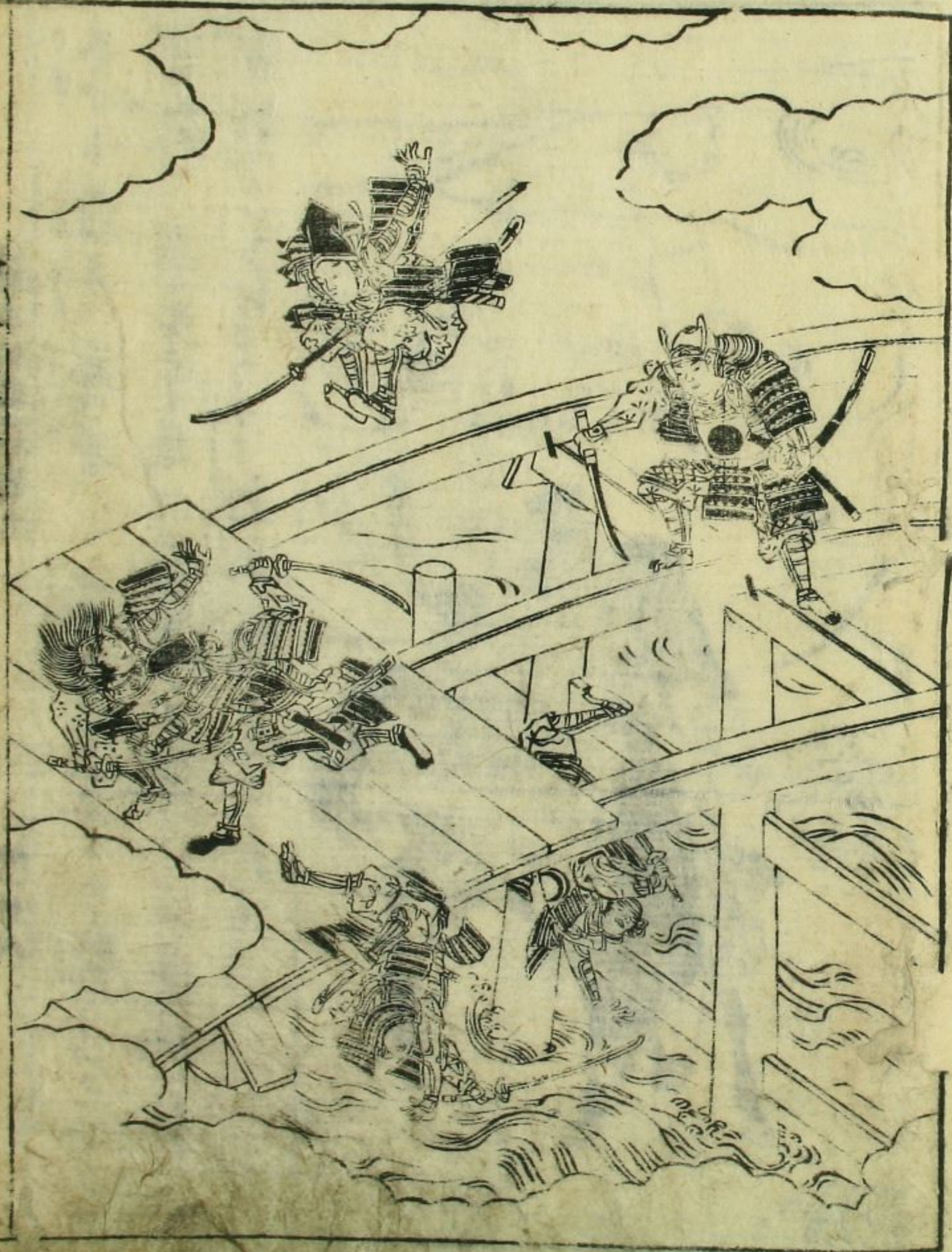
武七之流新法は何よの人と
 ありしと知りて常上徳の林
 とわ元暦の初教は海西に
 流る源平支家潰別し徳
 子おひと合戦の日義尾尾を
 逝去んは京法これと悲
 有りと能く遂に細と控
 有力とつる人皆是と愛

浄妙一來

筒井の浄妙明秀三井寺の僧侶なり茂仁皇子
 都といらさるふ時平氏の諸將追て空沼川に會
 れ政謀て橋上の板と壞り棄つ浄妙一人進て其
 乃板と走て輕捷の術と施して敵兵と殺し數
 十人なり又大力の勇傷一來法師といふあり同く橋梁
 と壊るに浄妙一人有てすむとわらるはこゝに於て
 浄妙の由を傳へるに頭上と蹴越て戦といふ

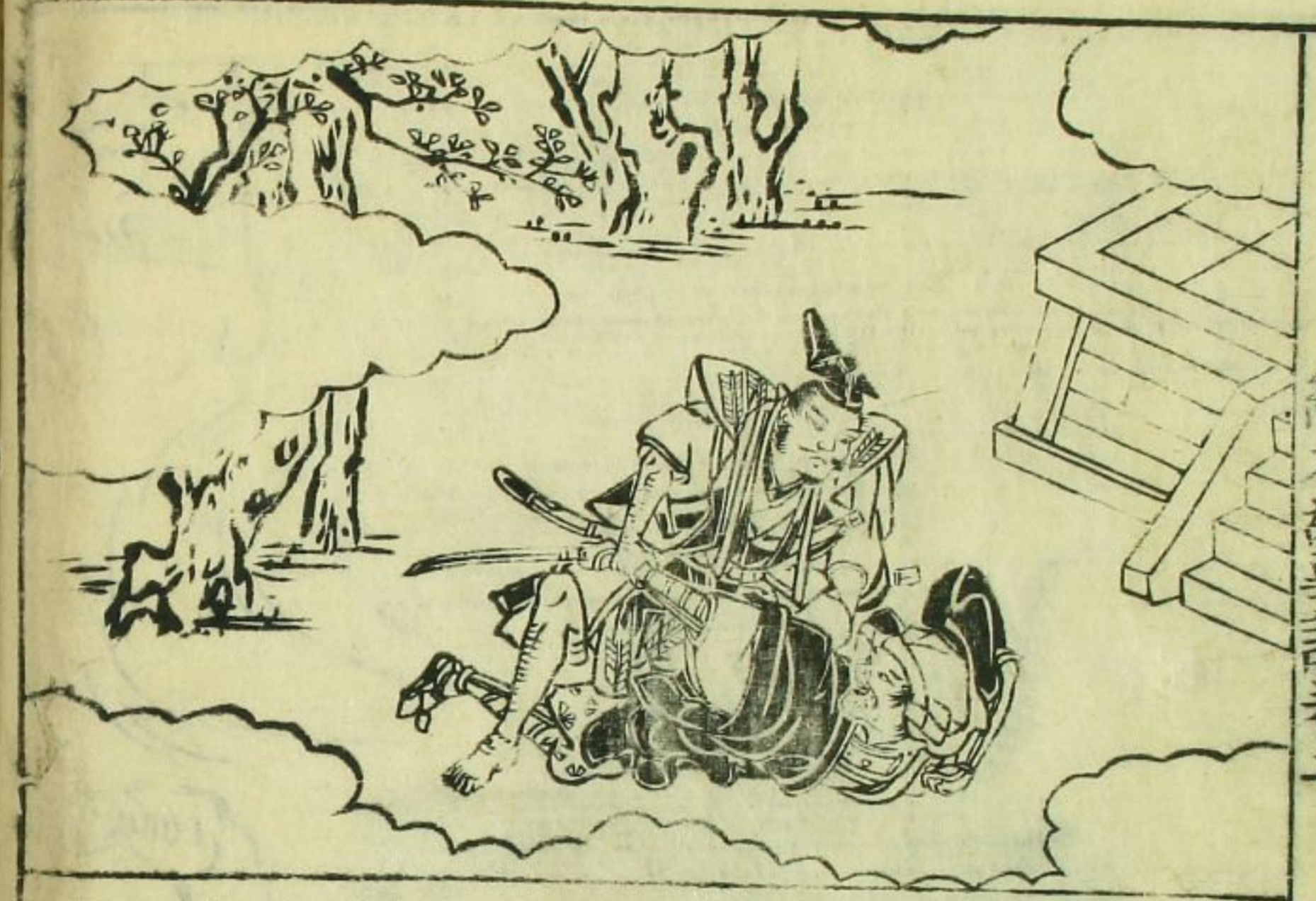
高細景季

作木四良子經ハ秀義の四男なり於朝義仲と征するの
 日於臨生食と賜て空沼川と渡其時梶原景季



香もも 摩呂と 賜へる 糶より 糶より 糶より
銀敷く 景季の 馬の 腹帯と 編みし 其間 祀後
糶切と 上げま 功の 糶と たりぬ





上総忠光
忠光ハ平氏の没士として上総
五郎普保と稱す後孝
院建久三年に永福寺の
新堂と強堂すの時れ
これと檢査せし忠光
鎌を以てたの眼と蔽ひ
仍て射がら老のよ
涙を懐て膝後のつら
給后に射を担て刺殺
さんと欲を射る時
是を



泉親衛
泉の親衛ハ佐加の人なり
源俊仲の母より勳力勇
氣多し人ハ傑出と建
高
交の酒に悪謀毒飲して
堂與十人つお子囚虜に
たり工友の某親衛が隠れ
方不と探て是と捕んと欲
親衛工友と殺して去
遂に

知る是と怪之京時として捕て同一
京時子命てこれと殺し

一在に失す子信玄現衛大証と負ひて水滸と云下流と

信玄傳

武田信玄の姓ハ源朝経三郎即二十七代の孫なり其時
村の礼成と傳ふ甲州に知事初冠して大尉義晴公
諱の字と稱して晴信と名を初て聰敏長して老成の
智わり父信虎信房諏訪の城と攻り其堅く守て後
ことわり信玄父子代て然り兵三百とゆく多子孫家て
信玄攻其城乃陷る人以此異たわらば然とも父信虎
性偏りて功と忌信玄と怒りて嫡とすて次郎信繁
と立んし欲と信玄も姻族今川義元と相謀て父
信虎と駿府に逐ふ先月甲府と依り親令と經
りて老臣舊將あてて争ふ光なり玉中るるいと信て

畏服を以て子とかり三千石奉て祝賀しては信虎談
山信玄と號し信正子任して金輿と馳り平生強毫
の執將と号戦して勝利と得たりとかり只ぐんてん
大して戦と挑む若く越前福信のこをわらぬ松原
梶原京時齋父と名景といふ故の氏ハ長尾屋なり後
則改の讓と更て氏とて上松といふ管轄の職
任と世越後の別子あり武畧と以て子守り初冠し
幕下義輝れ諱の字と稱獨して輝虎と名のつけ
して英才わり自いよく家父祖の勲勞よりいそ
かろ人君の榮貴と文て流し過飽と事とく銀
奉と掌するんもよく必と治らんや況今亂世



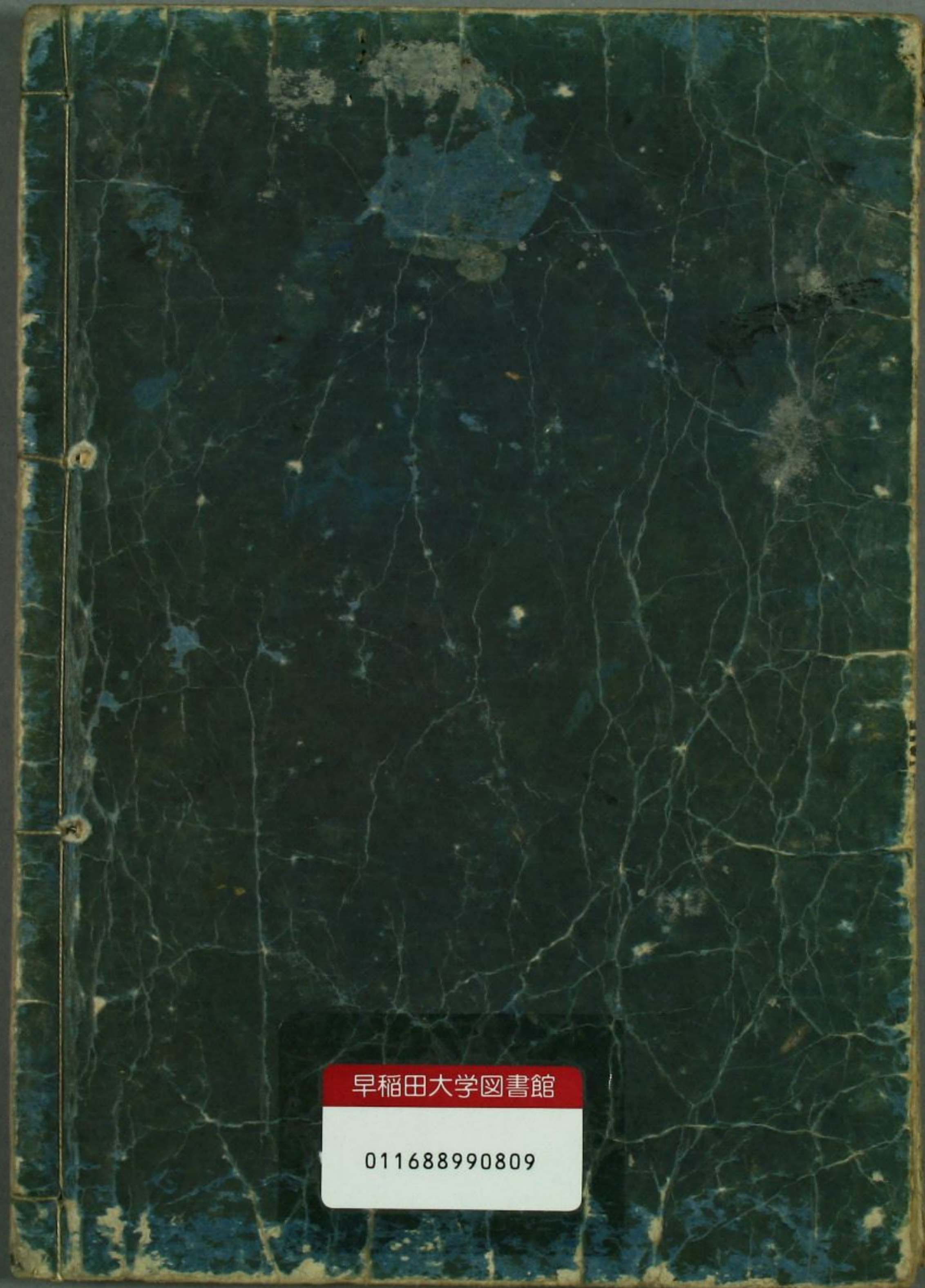
中へて徳敵
子孫とて遠
く城と出、及
び之と経歴
を馳騁寡を
以て之を勝
人にて之を將
の意と為り
十四歳に及
十八歳まで謙
信、信初

合戦と初て、後陳より十四年、及へり、或、信面と
信之、信去、子孫より、人との信去、固、おとめて
これと、うけて、あやういと
なるといへり

後陳塚

後陳塚伊賀守、島山守忠六世の孫、新田義貞乃
勇士なり、大將、氏明、を信して、世田の孫、在時、大軍
を攻破られ、士卒、多く、戦死、後陳塚、只一人死
す、其、淡棒と、括、圍、を、出、る、に、敵、敢、て、向、ひ、得、ん
遂、に、去、り、敵、船、を、乘、り、自、ら、從、と、擧、ぐ、櫓、と、起、て
舟、人、と、叱、り、浪、波、の、中、を、送、り、し、り





早稲田大学図書館

011688990809